



市町の検診 受診を

世の中にはたくさんのがん検査があふれている。医療機関などで数万円かけて受ける人間ドックにもがん検診項目がある。また職場によっては、健康保険組合ががん検診費用を補助してくれる場合もある。

主婦や自営業、無職など会社勤め以外の場合、身近なのは市町が実施するがん検診だろう。保健センターなどで受ける集団検診と医療機関で受ける個別検診があり、個別検診は居住地以外の医療機関でも受けられる。

こうした市町の検診は人間ドックや職場が指定する医療機関での検診と比べてレベルが低いと思っていないだろうか？ 市町の検診の自己負担額は5000、3000円と安い。このため「安かろう、悪かろう」と軽く見られがちだ。その誤解が、がん検診受診率が低い原因になっているのではないかと思う。

市町が実施するがん検診は有効性が証明されている胃、肺、乳房、大腸、子宮頸部けいぶの五つ。これらのがん検診は法律に基づき公費が用いられている。方法や対象年齢、間隔も国が定めており、X線写真を撮影する技師

や読影する医師についても必要な技量が規定されている。最先端であっても効果がまだ不確かなものも含んでいる人間ドックの検査に比べて劣るということはない。ぜひ受けてほしい。

さらに重要なのは、検診の結果「要精検」となったら、きちんと精密検査を受けることだ。がん検診は、一度受けてがんの有無だけを調べるものではない。異常の可能性があれば、きちんと調べるまでやって初めて意味がある。また、検診で「異常なし」でも自覚症状が出たら診察を受けることもお忘れなく。(県民健康センター所長)